

第2学年1・2組男子 保健体育科学習指導案

学習指導者 教諭 岩崎 洋之

1 日時, 場所 平成26年11月21日(金) 5校時 運動場

2 単元 球技「ゴール型(サッカー)」

3 授業構想

- (1) サッカーは、ドリブルやパスなどのボール操作で相手コートに侵入し、シュートを放ち、一定時間内に相手チームより多くの得点を競い合うゲームである。1、2年生では、基本的な「ボール操作」を身に付け、空間に仲間と連携して走り込み、マークをかわしてゴール前での攻防を展開し、得点を決めることに楽しさがある。
- (2) 本学級の生徒は、積極的に体を動かすことが好きな生徒が73%と多く、体育の授業に対しても意欲的に取り組む姿勢が見られる。アンケートの結果では「どんな時にサッカーが楽しいと思うか」の問いに「友達と協力(連携)できたとき」が60%、「チームが勝ったとき」が80%と多いのに対し、「どんな時に難しいと思うか」の問いには、「仲間との連携」が62%と多い。仲間と協力できた時の楽しさを感じつつも、連携することの難しさも感じている実態が明らかになった。
- (3) 生徒の実態から基本的なボール操作を高めながら仲間との連携を高めることで、意欲的に学習に取り組むことができると考える。そこで、個人の基本的な技能の向上を図るとともに、仲間との関わりや「できた」喜びを重視するため、以下の点に留意して指導する。
 - ・ペア学習やグループ学習を充実させ、仲間との連携がうまくできたときの喜びを味わわせる。
 - ・授業の中にドリルゲーム・タスクゲーム・メインゲームを取り入れることにより、個人及び集団技能、体力を向上させる。
 - ドリルゲーム … 主として個人技能の習得・習熟を目的とする。楽しく有効なゲームとなるように工夫し、数値化(回数・時間・点数など)できるのが望ましい。
 - タスクゲーム … 個人及び集団技能(仲間と連携した動き)の育成を目的とした、課題の明確なゲーム。ゲームの反省に基づいた課題を解決するために行うのが望ましい。
 - メインゲーム … ドリルゲームで身に付けた技能やタスクゲームで習得した動きを活かした総合的なゲーム。
 - ・空間に仲間と連携して走り込み、ゴール前でパスやドリブルを用いた攻防を展開できるゲームを目指し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わわせる。

4 単元(題材)の目標

- (1) サッカーの学習に積極的に取り組み、仲間と協力してプレイに参加することができる。
- (2) 自己やチームの課題を見つけ、解決に向けてグループ活動に取り組むことができる。
- (3) 基本的なボール操作の技能を高めるとともに、仲間と連携した攻防を展開できる。
- (4) 練習やゲームを通じてサッカーの特性やルールを学ぶとともに、技術の名称や行い方を理解できる。

5 学習指導・評価計画

1	2	3	4	⑤	6	7	8	9
整列・挨拶		学習課題の確認		準備運動		エンカウンター		
既習技能の確認	エンカウンター	オリエンテーション	○ 基本練習	○ ドリルゲーム				リーグ戦
			ゲーム(遊び)の中で基本的な技能を高められるように工夫する。	・ドリブルダッシュ	・パス交換			
			○ スキルテスト	○ タスクゲーム				
			・ドリブルダッシュ	・川渡りドリブル	・川渡りパス			
			・パス交換	・三角ゴールゲーム				
				○ メインゲーム				
				・ゾーンゴールゲーム	・三角ゴールゲーム			
				・4対4+GK				
本時の振り返り			次時の課題確認		整列・挨拶			

時	学習内容	評価方法	評価項目			
			関	思	技	知
1	オリエンテーション エンカウンター 既習技能の確認	学習カード 生徒観察	○			◎
2・3	エンカウンター 基本的なボール操作 スキルテスト チーム編成	学習カード スキルテスト	○		◎	
4・⑤・6	エンカウンター 基本的なボール操作 組織的な攻撃の練習 簡易ルールでのゲーム	学習カード 生徒観察		◎	◎	
7	エンカウンター 4対4+GKゲーム	生徒観察	○		◎	
8・9	4対4+GKゲーム（リーグ戦）	生徒観察		○	◎	

6 評価基準表

観点	評価基準
関心 意欲 態度	A：サッカーの学習に積極的に取り組み、フェアなプレイを守ろうとできる。 B：友達と協力してプレイに参加できる。 ※ 参加できない生徒には、直接個別指導する。
思考 判断	A：自己やチームの課題を見つけ、解決に向けてグループ活動に取り組むことができる。 B：課題解決に向けてグループ活動に取り組むことができる。 ※ グループ活動に取り組むことができない生徒には、直接個別指導する。
技能	A：ゴール前での攻防を展開するためのボール操作と、ボールを保持していないときに空間に走り込むなどの動きができる。 B：ゴール前での攻防を展開するためのボール操作、又はボールを保持していないときに空間に走り込むなどの動きができる。 ※ うまくボール操作ができない生徒や動けない生徒には、直接個別指導する。
知識 理解	A：技術の名称や行い方・ゲームの行い方について、学習した具体例を挙げることができる。 B：技術の名称や行い方、又はゲームの行い方について、学習した具体例を挙げることができる。 ※ 理解することが難しい生徒には、直接個別指導する。

7 本時の学習計画

(1) 題 材 球技「ゴール型（サッカー）」

(2) 本時の目標

- ・ 活動時間やボールに触れる時間を十分に確保し、技能・体力の向上を目指すことができる。
- ・ ペアやグループでの練習やゲームを通して、仲間と連携することの楽しさを知るとともに、グループでの役割を果たすことで、グループの一員としての自覚を持つことができる。

(3) 指導改善の工夫

- ① ペアやグループで協力して練習に取り組むことができる場や話し合いの場を設定することで、仲間との連携がうまくできたときの喜びを味わわせる。
- ② ゲームを多く取り入れることで、活動量を増やすとともに、体を動かす楽しさや勝敗を競い合う楽しさを体験させる。

(4) 学習指導過程

学習内容及び学習活動	指導上の留意点及び支援	評価
1 あいさつ・準備運動をする。 2 補助運動を行う。 ①ゲートクリアゲーム ②ドリブルダッシュ ③パス交換 3 学習課題を確認する。	○ 体育委員に率先して呼びかけさせ、チャイム挨拶を意識させる。 ○ 体育委員を中心に、安全に留意した準備運動をさせる。 ○ 仲間とともに動きながらパス交換をし、心と体をほぐす。 ○ ドリブルでラインタッチし、戻ってボールを止めるまでの時間を計る。 ○ 30 秒でペアとパス交換が何回できるかを競う。	
仲間と協力して、ゴールにつながるパスを成功させよう！		
4 タスクゲームをする。 ・川渡りパスゲーム 5 メインゲームをする。 ・ゾーンゴールゲーム 6 本時の振り返りと次時の確認をする。	○ グループで協力し、状況を見てパスコースを選択し、狙ってキックさせる。 ○ 空いているパスコースを見つけた場合は、声を出してボールを要求するなど、チームで協力するとこの大切さを認識させる。 ○ 本時で学習した成果を確認させる。 ○ 仲間と連携し、広く空いている空間をパスやドリブルによって上手く利用させる。 ○ 学習カードに記録や本時の振り返りを記入させ、チームで次時の課題を確認させる。 ○ 服装の乱れや整列の確認をさせる。	[Ⅱ] 思考・判断 ○ 「ボールの動かし方」や「ボールをもらうタイミング」によって、効率よくパスを回せることが理解できる。 [Ⅲ] 技能 ○ 本時で学習したことを活かし、仲間と協力してゴールを目指すことができる。